

専門科目履修モデル2「文学コースで能楽を研究する」

学年	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	取得単位	卒業必要単位数	
必修科目	大学での国語力	2	日本文芸史ⅠA・B	4			卒業論文	8	30単位	30単位	
	日本文芸学概論A・B	4	文学概論A・B	4							
	日本語学概論A・B	4	日本文芸史ⅡA・B	4							
選択必修科目	ゼミ		ゼミナール	4	ゼミナール	4			8単位	8単位	合計 38 単位 以上
	特講	(2)中古A・B	4	(10)演劇A・B	4	(4)近世A・B	4		24単位	24単位 以上32 単位以下	
		(3)中世A・B	4	(11)音楽芸能史A・B	4	(14)沖縄文芸A・B	4				
選択科目	ゼミナール入門	2	日本芸能史論	4	音楽芸能史特殊研究A・B	4		8単位			
					美術史(日本)A・B	4					
コメント	<p>「大学での国語力」は1年次の前期に履修する必修科目で、難解な論文や作品を読むための基礎を学びます。演習で口頭発表をするための技能を学ぶ「ゼミナール入門」も必ず受講しましょう。「日本文芸学概論」「日本語学概論」は日本文学研究を幅広い視点から学ぶ授業です。能楽研究は、隣接する時代・分野が広い研究テーマなので、この時期から興味を広げておきましょう。また、選択必修科目は、『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』や和歌といった日本古典文学の代表的作品を精読する科目を受講しましょう。</p>		<p>2年次からはゼミが始まり、受講できる専門科目も多くなります。受講する科目は曜日や時間帯で決めるのではなく、自身の興味にそって科目を選択しましょう。能楽のゼミに入った（もしくは能楽を学びたい）場合は、日本の古典芸能を集中的に学ぶことを勧めます。日本文学は、文学や言語以外の芸能・演劇を学ぶ講義も充実しています。それらを組み合わせ、日本の芸能を体系的に研究してみましましょう。ただし、2年次からは必修科目も多くなってきます。それらとのバランスにも気をつけて、選択必修科目を受講してください。</p>		<p>3年次には近世の文芸作品や沖縄文芸といった1、2年次には受講しなかった分野の科目を選択することを勧めます。江戸時代に成立した歌舞伎や人形浄瑠璃、琉球の芸能である「組踊」も能と密接な関係のある研究テーマです。こうした分野のことを研究することによって、来年度執筆する卒業論文の可能性が一層広がっていきます。卒業論文は4年次に履修するものですが、最後の1年のみで準備するものではありません。この時期から、卒業論文を意識しながら、どのようなテーマで能楽について研究できるか、考えておくことが理想的です。</p>		<p>4年次はいよいよ卒業論文の作成に取りかかります。計画書は5月中旬に提出することになりますので、早い段階から、全体の構成を練っておく必要があります。また、計画書を提出した後は、それにそって地道に作業を進めていきましょう。最後の数ヶ月で、慌てて書いたものでは、及第点に到達しません。当初に考えた計画は、当然変わっていくものです。時間をかけて自分の考えや文章を再検討することで、よりよい論文を作り上げることができます。卒業がなぜ8単位あるのか、その重みをよく考えて取り組むようにしてください。</p>		<p>選択必修科目・選択科目、そして自由科目の単位数に気をつけてください。選択必修科目と選択科目を合わせて<u>38単位以上</u>、自由科目が<u>8単位以上</u>という決まりがあります。この「～以上」に気をつけて、総単位数が充足しているかを成績交付時・履修手続き時に、よく確認しておくことが重要です。また、3年次までに履修しなければ進級できない科目（大学での国語力・日本文芸学概論・日本語学概論）があることも忘れないでください。</p>		

学部専門科目は、1, 2年次の履修上限が42単位なので、ここに記載されている2年次の科目をすべて2年次のうちに履修できるわけではありません。上限を超える場合は、3年次に履修してください。